

小学校におけるICT活用指導力向上を促す取組み

ー ミドルリーダーのマネジメント行動の実践 ー

学籍番号 249121

氏 名 中野 豪丈

主指導教員 寺嶋 浩介

副指導教員 (M1) 錢本 三千宏

副指導教員 (M2) 陸奥田 維彦

1. 研究の背景と目的

1.1 背景

実習校は公立小学校として、2021年度に所属自治体の「スマートスクール実現モデル校」に指定された実績を持ち、ICT教育の普及推進に努めてきた。しかしながら、2022年度以降の本校におけるICT活用の実態を整理すると、2つの課題が見られた。

第一に、教員間のICT活用指導力の格差が大きい点である。モデル校としての実績はあるものの、近年の教員の入れ替わりや新任教員の赴任、さらには校内研究テーマが変わったことにより、指定当時に蓄積された知識や教員のICT活用指導力に差が生じている。

第二に、ICT活用指導力チェックリストにおいて課題が見られることである。2023年度に実施したICT活用指導力の調査では、全国平均と同様の傾向が見られ、特に「教材研究・指導準備での活用（項目B）」や「授業中での児童のICT活用指導（項目C）」の数値が低く表れた。

以上の背景から、ICT活用指導力の向上が、現在取り組むべき喫緊の課題となっていた。

1.2 目的

本研究の目的は、「児童の情報活用能力の育成を見据え、授業におけるICTの日常的かつ効果的な活用を実現するために、教員のICT活用指導力の向上を図ること」である。そのために、ICTを学習の道具として適切に位置付け、主体的・対話的で深い学びを支える授業実践を学校全体で推進していくことをめざす。そこで、教員一人ひとりのICT活用指導力の向上に取り組む。

2. 基本学校実習の取り組み

2.1 計画と実践

基本学校実習では、実習校の実態把握と、その結果を踏まえた課題解決を行った。実態把握にあたっては、日本教育工学協会による学校情報化認定の指標およびICT活用指導力チェックリストを用いて分析を行った。その結果、実習校では教員のICT活用指導力を系統的に高める研修や仕組みが十分に整っていないという課題が明らかになった。そこで、ICT活用指導力向上と授業でのICT活用推進を一体的に進めるため、ICT研究部での実践報告会、ICT通信の作成、ICT学習会の実施などをグランドデザインとして整理し、学校全体で継続的に取り組む体制を構築した。

2.2 成果と課題

グランドデザインに基づいて取組みを行うことで、学校情報化認定の評価においては、「レベル0（取組みが不十分な状態）」が見られなくなり、複数の項目でレベルの向上が確認されるなど、教員全体の技能や意識の底上げが図られた。特に、学校情報化認定の「教科指導におけ

るICT活用」「情報化の推進体制」で向上が見られた。

一方で、一部の項目ではレベルの低下も見られ、ICT活用を定着させるためには継続的な支援が不可欠であることが明らかになった。また、異動や新規採用によって教員構成が変化した場合、ICT活用の水準が低下する可能性も否定できない。教員のICT活用指導力の変化を把握し、教員を巻き込む取組みを継続することで実践を重ねていく必要があった。

3. 発展課題実習の取り組み

3.1 計画と実践

発展課題実習では、新たに組織された校内組織「学力向上部会」が活動の基盤となった。基本学校実習で作成したグランドデザインの見直しを行い、グランドデザインをもとに、部会長として学習会や校内研修を推進した。取組みにあたっては、文部科学省の「ICT活用指導力チェックリスト」を活用し、教員のICT活用指導力の変化を継続的に把握・評価しながら実践を積み重ねた。

また、筆者の役職（首席）として、学校組織を巻き込みながら合意形成を図り、教員が主体的に参加できる環境づくりに努めた。これにより、実習校全体におけるICT活用の取組みを、持続的に発展させていくことをめざした。

3.2 成果と課題

ICT活用指導力の向上を意識したグランドデザインを策定したことにより、学校全体におけるICT活用の方向性や段階が明確となり、教員のICT活用指導力を継続的に高めていくための基盤を形成することができた。実態に応じた学習会や校内研修を実施した結果、ICTを活用する教員が増加し、授業実践の広がりが見られた。また、学習会や研修を通して「ICT活用について相談できる存在」として認識されるようになり、日常的な相談対応や支援を行うことができた。取組みを推進する過程で、ICT活用指導力チェックリストを用いて数値データとグランドデザインに基づく取組みを関連付けて省察したことで、ミドルリーダーとして組織的にICT活用を推進する視点が育まれた。

一方で、経験豊富な教員が有する実践知については、学校全体で継続的かつ効果的に共有する仕組みを構築するには至らなかった。そのため、組織の実態に応じた支援内容や研修の在り方について、十分に整理できなかった。また、これまでの取組みを踏まえてグランドデザインを更新し、他校でも応用可能な汎用的モデルとしての体系化が、今後の課題として残った。

4. 研究のまとめ

「ICT活用指導力の向上」を中心に据え、日常的かつ効果的なICT活用が学校全体に根付くことをめざしてグランドデザインに基づいて実践を行った。グランドデザインに基づいて取組を進めることで、ICT活用に関する実践や考えを共有したり、教員のICT活用を支援したりすることができた。学校情報化認定で組織の実態、ICT活用指導力チェックリストで教員の現状を把握し、学習会や研修、日常的なICT活用に関するコミュニケーションを通して支援を行った。その成果として、初任者教員が授業にICTを取り入れる姿や、これまでICT活用の経験が少なかった経験豊富な教員が授業でICTを活用する姿が見られるようになった。

2年間の実践を振り返る中で、組織全体を俯瞰し、目的達成に向けてマネジメントする力量が形成された。筆者のテーマであるICT活用指導力の向上は、個人の努力に委ねるのではなく、組織として支援していく視点が不可欠であると捉え、教員の力量や状況に応じた人的支援を意識したマネジメントを行った。今後も、マネジメントの視点を持ち続け、向上を図っていく。